

【文化庁カリキュラム準拠授業】

『浴衣を着てみよう』

＜教室活動の目標＞

- ・浴衣を買うことができる
- ・浴衣を着ることができる・

＜教室活動のねらい＞

- ・浴衣をとおして日本の文化を理解する
- ・浴衣を買うことができる
- ・浴衣を自分で着ることができる
- ・浴衣を着て花火・夏祭りなどに出かけることができる

・

＜教室活動の進め方＞

- ・浴衣の解説
- ・浴衣を買う時の会話練習
- ・浴衣を着てみる

ゆかたを買います

アウンさんとキンさんは、山田さんと浴衣を買いに行きました。

山：このリサイクルのお店がおすすめです。

安くて、きれいなものが多いです。

キ：たくさんありますね！

ア：男性の浴衣はどこですか。

店：こちらです。

キ：これが一番かわいいですね。これがほしいです。

山：寸法は大丈夫ですか。

キ：寸法って、なんですか。

店：サイズのことです。試しに、はおってみてください。

ア：これは新しいものですか。

店：うちには、新品はあまりありません。

これも、中古になります。

ア：ずいぶん安いんですね。どうしてですか。

店：汚れはほとんどありません。

外から見えないところに、小さなシミが少しだけあります。

でも、寸法がとても小さいんです。

キ：すみません、腕はちょうどいいですが、下は長すぎます。

店：ああ、それでもたけもちょうどいいですよ。

女物は、たけは身長と同じくらいです。

着る時に、調節します。

キ：どうやって着るんですか。やってももらえますか。

店：はい。では腕をあげてください。

山：アウンさんも、キンさんも、どうでしたか。

ア：たくさん着物があって、おもしろかったです。

キ：かわいいのが買えて、うれしいです。

山：では今度、みんなで花火をみにいきましょう。

ア：いいですね。

キ：楽しみです。

教える方へ

自然な実地的な表現をこころがけたため、初級の学習者に対しては表現や文法、語彙等を適宜おこなってください。

※コンビニエンスストアやスーパーマーケットなど異なり、リサイクルショップは店員とのやり取りがより必要となってくる。商品の置き場、種類、状態など、確認することが多い。

※自力で商品の状態が確認できるか、商品の使い方をきくことができるか、そのほか店員と和やかにコミュニケーションをとって買い物ができるかといったことが目標とされる。

※着物という、普段触れることの少ない文化を対象にするぶん難易度は高いが、文化的に興味を持つ人が多い分野でもある。

チェックポイント

*男性、女性 男物、女物 (着方の違いも)

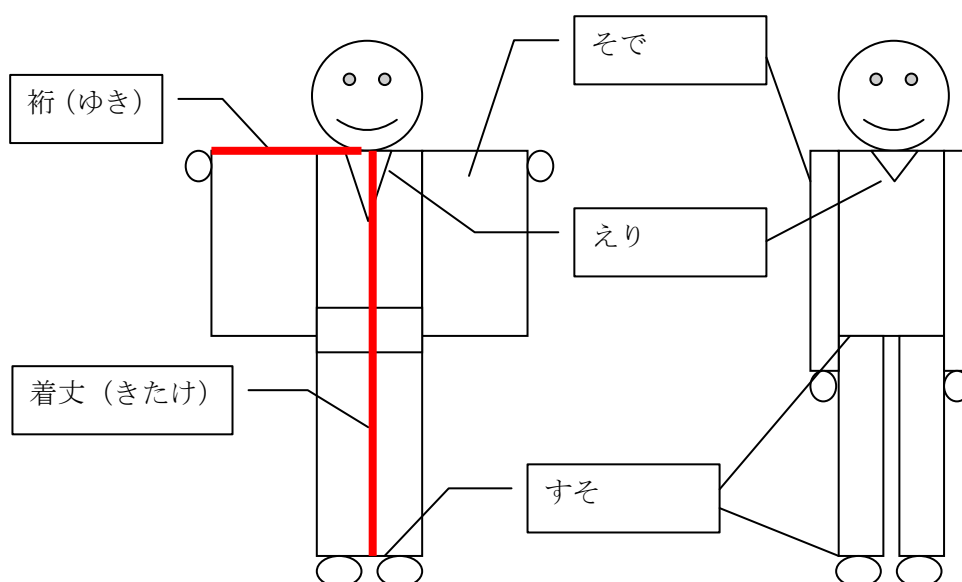
*新しいもの 新品

*身長

*洋服、和服の各部の名称

腕→そで、下→すそ

(この場合の「腕」、「下」は語彙が不十分な初級学習者が代用表現として使う場合がある) その他、服の部分の名称



ゆかたをきてみよう

「ゆかたを着てみたいけど、着付けが難しそう、帯も…」
いいえ、そんなことはありません！
簡単にいえば、布の長さをあわせて、体に巻いて、ひもで結ぶだけ！
帯だって、2回巻いて、2回結ぶだけなんです。
今年の夏はゆかたデビューしませんか？

★用意するもの

【必要なもの】

浴衣、帯（兵児帯or半幅帯）、腰ひも（2本）、
下着（「ゆかたスリップ」（¥1～2000 くらい）が便利です）
下駄（なければパナッやゆかたに合うサンダルでOK）
タオル（ウエストをなくして、体のラインをまっすぐにする）

【あると便利なもの】

帯板（なければボール紙でもOK）
伊達締め（胸の下でしめる腰ひものかわりに使うと胸が苦しくない）
コーリンベルト（使うとえりがくずれない）

！チェックポイント！

- ・おはしよりは前・後ろともきちんとしていますか？
- ・背中（右・左）が真ん中でわかれていませんか？
- ・下前は上前にかくれていますか？
- ・決して「左前」にしないこと！死んだ人が左前に着ます。

ゆかたの着付け 男性編

必要なもの

：ゆかた、^{おび}帯、腰ひも、^{げ だ}下駄



ゆかたを着つけよう



1. ゆかたをはおる。 ※はおる：^{ふく}服を袖に腕を通し^{かた}肩にかけること

まずはゆかたに^{そで}袖を通す。

真ん中の縫い目^{ぬいめ}が背骨^{せぼね}に沿うように、



2 前を合わせる。

両手で^{えり}襟を持ち前へ^{そろ}揃える、

3 ゆかたを持ったまま右手から左の腰骨に当て左手をそのうえから腰に当てる。※必ず右手から。左手から先に合わせる^{きかた}着方は死んでしまった人の着方なので絶対にやってはいけない。



4 腰ひもで縛る、ひもの真ん中をへその下に当て、そのまま後ろを一回りして前で結ぶ。高さは腰骨の辺り、余ったひもは左右に伸ばして挟み込む。



5 帯の締め方 (貝の口)

A、てをつくる、帯を縦に 30cm くらいの長さで折り左手で持つ。※下線部分をてと言います。

折り目がある方が下に来るように持つこと。



B、腰に巻く

てが上になるように腰に三回回す

C、たれを作る、余った部分右手がちょうど伸びきるくらいの長さに折り込む。

※できた部分をたれと言います。



, A で作った「て」と C で作った「たれ」を結ぶ、左手で持った「て」の上から右手で持った「たれ」をかけた「て」の下を通して引っ張り上げる。ゆるまない様にしっかり引っ張ること。



E, 「たれ」を折り返し、作った輪の中に「て」を入れて結ぶ。



6、できた結び目を後ろに回して完成、回す方向を間違えないようにすること、必ず時計回りに回す。
帯は前が下がるようにする。



下駄をはいて出かけましょう

